

2023年3月発行

一般社団法人

News Letter

ニュースレター

大学女性協会静岡支部

発行責任者／支部長 山下いづみ



富士川より富士山を望む

支部長挨拶

静岡支部活動にご協力、ご関心いただきありがとうございます。静岡支部では4年前から、女性のキャリアアップ事業をスタートさせました。今年は2019年にヒヤリングにご協力いただいた方々から4名をパネリストに迎えて、オンラインシンポジウムを開催しました。女性のキャリアといっても職種も様々でそれぞれの職場で創意工夫をしながらキャリアを築き上げてきたことがよくわかりました。女性のキャリアアップ事業は来年度も引き続き、趣向を凝らして進めてまいります。

昨年、大学女性協会全国セミナーで静岡県立大学の津富先生と「学生助けたいんじゃー」を組織する学生さんたちの話を聞く機会がありました。心に残る言葉として、「ケアしあう」がありました。そして、若者の生きづらさについて考えさせられることもありました。そのようなことから、大学女性協会調査研究委員会が計画をしている「ユースの生きづらさ」に関する大学生などへのアンケート実施に静岡支部も協力をしていく予定です。

新しい生活様式と言われて久しく、新たな気持ちで静岡支部活動を進めてまいりたいと思います。2023年度が皆様にとりまして、喜びの多い1年となりますように。

静岡支部長 山下 いづみ



支部初 オンライン公開シンポジウム

「女性のキャリアアップ

～意思決定プロセスへの参画のために～

勝又 幸子

今年、支部初の試みとして、オンライン公開シンポジウムを開催しました。

シンポジウムの前半では、去年懇話会にご出席いただいた4名の管理職経験者のみなさんに、女性が管理職となり、さらに職場の意思決定に関与していくために、それを阻む障壁は何かについて、ご経験を交えたお話しをしていただきました。後半では、各パネリストを含む4つのブレイクアウト・ルームにわかれ、意見交換を行いました。ブレイクアウト・ルームとは、主催者が任意のグループ分けをし、参加者が少人数で意見交換ができるようにする方法です。ひとつのグループが4～5人となり、30分間自由に意見交換をすることができました。このような方法でオンラインでも一方通行の講義方式ではなく、双方向のコミュニケーションができたと思います。

まず、前半のパネリストの発言では、近年管理職になる女性は増えてきましたが、意思決定にコミットできる「ラインの管理職」に就く女性はまだまだ少ないという発言がありました。多くの場合、組織で「ラインの管理職」が男性で占められている時、はじめて女性がその中に入っていくのは容易でないことも職種を超えて共通にみられる状況だとのことでした。しかし、そういう状況を打開するには、女性の管理職が職場内外でよいコミュニケーションをとって仲間を増やしていくことが有効だとの体験談がありました。また、異動になるたびに、その職階に有用な資格などを習得していく努力を惜しまないようにしてきたという体験談もありました。しかし、日本という社会全体としてラインの女性管理職数を増やすためには、クォータ制（女性の割合を一定以上に定める政策）などの制度の整備やそれを支える法律を整えることも不可欠ではないかという意見が出されました。

ブレイク・アウトルームの意見交換では、男性のオールドボーイズネットワークみたいなものをどうやったら打破できるかという話しが出ました。政治の場でも女性が少なくなかなか増えないという実情も話されました。女性の管理職と管理職になりそうな人たちの数を増やしていくために、女性たちがうまくネットワークを組んでいくことも大事、しかしあまりにがちりやってしまうと、男性対女性の対立になってしまうので、緩やかなネットワークが大事ではないかという意見も出されました。

この日の参加者には比較的年齢の高い人が多かったのですが、管理職候補になる若い人たちにこそ、今日のような先達の経験を伝えていく必要があると共通の認識がもてました。そこで、静岡支部では、2023年度も「女性のキャリアアップ」を推進するこの事業を継続していくことになりました。



オンライン公開シンポジウムちらし

リトルワールドキャンプ 19 に参加して

林 幸子



静岡支部が県立大学リトルワールドキャンプとかかわるようになって、10年以上の歳月が経ちます。

キャンプもコロナ禍で、昨年と一昨年は実施出来ませんでした。2022年は8月10日～12日まで県東部の長泉町桃沢野外活動センターで3年ぶりに開催されました。

参加者は子ども19名（日本の子ども16名、外国とつながりのある子ども3名）、学生スタッフ32名、高校生ボランティア11名など総員67名でした。学生スタッフは誰一人としてキャンプ経験者がなく、苦労したようでしたが、若さと精神力で乗り切りました。私はキャンプ2日目の野外炊飯等に参加し、キャンプ場に着くとカレーが出来ており顧問の津富先生がカレーを持ってきて下さいました。山の中で味わうカレーの味が美味しく忘れられません。午後は大漁旗作りなど吉原高校生による遊びの企画がありました。また、12月4日には、夏のキャンプに参加した小学生を招き「久しぶりの会」を開催し、工作に励む姿がほほえましく、人と人がつながる温まる会でした。

子ども達が異文化に興味を持ち理解する場を作りたいと始まった多文化共生キャンプ、私達静岡支部も応援します。





1年1冊「季刊清水」の発行

鍋倉 伸子

亡父が創刊した「季刊清水」を36号から再刊し、昨年55号を発行しました。今まで清水次郎長、有度山や三保なども特集してきました。

清水というと港に目が行きますが、今回高部を取材して、山側にも庚申塔や懸仏など奥深い文化があることに気がきました。



【新入会員紹介】 佐藤和枝さん



昨年、入会させていただきました佐藤和枝と申します。

40歳代で主婦から(株)ミズ・クリエイションを起業し、60歳代で静岡大学大学院総合科学技術研究科の事業開発マネジメントコースを修了しました。研究テーマは「地域活性とブリッジパーソン」ですが、根底は常に女性の経済的自立がありました。

なぜ、そのような考えを持つようになったかというところ、幼少のころ、叔父叔母たちと暮らす大家族の中で育ちました。長男の嫁の母は収入のない専業主婦、二人の叔母は職業婦人として輝いていました。歳がそれほど違わない母と叔母の2つの女性の生き方に、子供ながらも複雑な思いを持っていました。女性の経済的自立なんて子供の頃はわかりませんでした。あのモヤモヤはずっと後になって理解することができました。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

(第三種郵便物認可)

講演する佐藤さん＝浜松市浜北区のなゆた・浜北

地域活性へ方策学ぶ

浜北商工会の新春賀キワードに「女性リ
詞交歓会が19日夜、浜一ター「共感力」多
松市浜北区の複合施設様性」を掲げた。
なゆた・浜北で開か 佐藤さんは1991
れ、浜北商工会議所女 年に起業。主婦の困り
性会の元会長で起業家 事を解決しようとハ
支援などに携わる佐藤 スクリーニング業を始
和枝さんが講演した。 め、地方でもマシヨ
需要を先読みしたビジ ングが建つようになった
ネスの経験を語り、今 ことで「戸建て住宅の
後の地域活性のための ような取納スペースが
不足すると考えてレン
タルスペース業も手が
けた。代表権はすでに
息子に渡したが、当時
意識したポイントとし
て「在庫を抱えないこ
とと既存の顧客が継続
して利用してくれるこ
と」を挙げた。
米国のテクノロジー
企業の隆盛なども解説
し「社会は急速にサー
ビス産業化している」
と指摘。こうした社会
で地域づくりを進める
ために、これまでは少
数だった女性リーダー
の存在や共感力がある
人、多様な価値をつな
げる「ブリッジパーソ
ン」が重要だと強調し
た。(浜北支局・松浦直希)

おしらせ 今後の予定

【静岡支部総会】

日時：令和5年5月14日(日)

14:00～

場所：アイセル21

【全国総会】

日時：令和5年5月21日(日)

場所：東京新高輪プリンスホテル



編集後記

コロナ禍は、本当に大丈夫なのでしょう
か？移動もマスクも緩和されてきていま
す。自己管理の判断がなかなか難しいです
が、皆様ご自愛ください。

今年は、統一地方選挙の年。メンバーの
必勝を願います。新メンバーのご活躍も期
待しています。

編集担当 佐藤 成子